

政策研究会 Topics No.3

第3回政策研究会〈平成30年6月29日 センター〉

ローカルビジネス実践者からお話を伺いました！

第3回の政策研究会では、ローカル地域でのまちづくり実践者として現場の第一線でご活躍されている方からお話を伺うことにしました。

1人目は、岡山県西粟倉村で2012年に(株)sonraku(旧村楽エナジー(株))を設立し、宿泊施設を中心とした地域の再生を手掛けていらっしゃる井筒耕平さん。

もう1人は、地域活性化ファンドの運営や長野県湯田中温泉の再生などを手掛け、地域での起業支援や地域活性化のモデルに取り組んでいらっしゃる(株)WAKUWAKU やまのうちの岡嘉紀さん。



(株)sonraku 代表

井筒 耕平氏



(株)WAKUWAKU やまのうち代表

岡 嘉紀氏

お二方とも輝かしい実績をお持ちですが、研究員と世代が近いこともあってか、ざっくばらんにお話を聞かせていただきました。

井筒氏は、美作市(岡山県)の地域おこし協力隊を得て、西粟倉村に移住して会社を興しました。営業をやめていた村営施設のあわくら温泉「元湯」を復活、宿泊施設を運営しながらバイオマスによる熱供給事業を展開、さらにバイオマス事業の企画・コンサルティングなど幅広く活動されています。

西粟倉村は人口1,600人ほどの小さな村ですが、30社くらいのベンチャーが育っていてその代表の8割は移住者とのことで住民、役場、移住者がフラットな関係にあるそうです。そういう関係には行政のスタンスも大きく影響しているようで、西粟倉村の職員は、すぐに無理と言わずに必ず検討してくれる、役場なのにNPOとかベンチャーっぽい、のだそうです。

岡氏は、2014年に鶴ヶ城でプロジェクションマッピングを行ったさくらプロジェクトで福島県と関わりがありました。地元の銀行などが官民ファンドを設置して、観光振興を図ることになり、岡さんもREVIC（地域経済活性化支援機構）のメンバーとして参画されました。湯田中温泉のかえで通りの遊休物件をリノベーションしたゲストハウスや飲食施設をオープン、若者に経営を任せて温泉街の活性化と人材育成を手掛けてきました。泊食分離は宿泊施設にとっても効率的で、地方では宿からリードしていくのがよいのでは？などのアドバイスもいただきました。



今回の研究会から、15名の研究員が3つのグループに分けられました。効果的な運営や活用を考えるメイン施設として、せせらぎ荘、葛尾村復興交流館、未利用施設に分けてそれぞれのグループで担当します。

研究会後半は、グループワークを行いました。

はじめに、それぞれが担当するメイン施設の強みや弱みを洗い出すSWOT分析、次に洗い出した項目をクロスに組み合わせるクロスSWOT分析で対応の方向性を意見交換しました。その結果を踏まえて、次の研究会では、提案のヒントを得るための視察を行うこととしており、視察先をどこにするかをグループごとに検討しました。

